

国史跡武蔵国府跡（国司館地区）  
保存活用整備工事（第1期）実施設計の概要

1 対象範囲

第1期工事は、「基本計画（提言書）」の3つのゾーニングに基づき、「古代の空間再現ゾーン」「国衙地区（大國魂神社）連携ゾーン」を対象範囲とします。

JR府中本町駅前に隣接する「にぎわい創出ゾーン」については、平成28年度以降、より効果的な整備活用の方法を検討したうえで、第2期工事分として平成30年度より工事に着手する予定です。

2 遺構整備

(1) 基本方針

史跡指定地全体を現状のまま保存することを前提として、全体に厚さ30cm以上の盛土をして遺構の適切な保護を図ります。

(2) 整備対象とする時代と遺構

整備によって遺構表示を行う対象は、最もその重要性を示す奈良時代前半（8世紀前半）の国司館主屋（正殿）、副屋（脇殿）、附属建物、竪穴建物跡及び大型円形土坑とします。

(3) 遺構表示方法（資料2 ページ1 ③、 ページ6～8）

国司館主屋（正殿）、副屋（脇殿）、附属建物については、取り外し可能な柱を立て、実物大で原位置に立体表示します。竪穴建物跡と大型円形土坑は、原位置に平面表示します。

(4) ヴァーチャル技術の活用

AR（拡張現実）、VR（仮想現実）等の技術を用いたスマートフォン・タブレット端末用のアプリケーションソフトを開発し、端末の画面上で国司館建物や当時の景観の復元画像を見ることができるようになります。



ふるさと府中歴史館でのヴァーチャル画像活用例

3 外構整備

(1) 出入口（資料2 ページ1 ⑪、⑫、 ページ2）

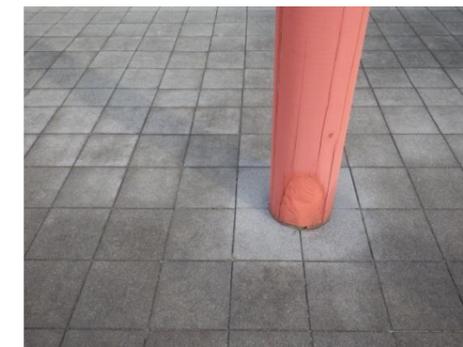
史跡境界北側に出入口（門扉）を2カ所設置し、管理上、夜間は閉鎖します。

(2) 園路（資料2 ページ1 ⑥、⑦）

国衙地区連携ゾーンは全体を石張りとし、古代の空間再現ゾーンは透水性インターロッキングで園路を整備します。



石張りの施工例（本町1丁目道路）



透水性インターロッキング施工例（国衙地区）

(3) 広場（資料2 ページ1 ⑩、⑪）

古代の空間再現ゾーンの南西側に人工芝張りの広場、北側に植栽広場を整備します。植栽広場は将来的に「古代万葉植物園」として、市民と協働で活用を図ります。

(4) 植栽（資料2 ページ1 ⑬、⑭、 ページ3）

府中街道側と南側マンションの敷地境界に「ウバメカシ」を植栽します。にぎわい創出ゾーンは、第2期工事着手までの間の景観に配慮し、「クローバー」を植栽します。

(5) サイン（資料2 ページ1 ㉑、㉒、㉓、㉔、 ページ9～10）

景観を乱さない範囲で史跡や遺構の説明板を設置します。

(6) ベンチ（資料2 ページ1 ㉕）

古代の空間再現ゾーンに休憩用のベンチを設置します。

(7) 電気設備（資料1 ページ1 ㉖、㉗）

府中街道側の敷地境界にポールライトを設置し、古代の空間再現ゾーンの園路に沿ってアプローチライトを設置します。

4 今後のスケジュール

時 期	第1期工事	第2期工事
平成28年3月	実施設計の終了	
平成28年7月		にぎわい創出ゾーン民間市場調査の実施
平成28年10月	第1期工事の着工	
平成29年4月		実施設計の開始
平成30年3月	第1期工事の竣工 一般公開開始	実施設計の終了
平成30年10月		第2期工事の着工
平成32年3月		第2期工事の竣工 一般公開の開始